母校にまつわる思い出 (※1)

中21回卒　越智　英男 (※2)

寄宿舎でのユーモア

私は双葉郡広野の生れ、当時はランプ生活の田舎育ちでした。ふとした縁で相馬中学に入学し、なれない寄宿舎生活が始まった。一部屋４人で、室長から「照明電気の油を買って来い」と命じられ、校門前の大寺という雑貨商に行って「そんなものはないよ」と、大笑いされる程の田舎者でした。

１年生の２学期末に試胆会とか称して、真夜中に相馬神社へ品物を置きにやらされた。途中に先輩が色々とおどかしつける。田舎育ちでも恐ろしくてヒヤヒヤブルブル、心臓破裂の直前だったこともあった。

運命の綱

中学３年の１学期末の試験の最中だった。真向いの寄宿から出火して丸焼けとなって、寮生は解放された。急に下宿さがしとなり、小泉町のお裁縫の家に世話された。この下宿が縁となって、私を今日あらしめた女人ヒデ（今は亡し）と結婚するようになった。

５年生の頃は、相中の運動部は凄かった。私も鹿島村生れの後藤 (※3) 君とペアを組んで、県大会で優勝し金メダルを受賞して母校の名声をあげたものだった。それも庭球部長の英語の神様といわれた滑川一郎 (※4) 先生のきびしい稽古の賜ものである。

その部長滑川先生が後に磐城中学の校長に栄転され、私が鉱専卒業の際「物理を教えに磐中に来い」と招聘されましたが、初一念を貫くため常磐炭鉱に身を投じたのでした。

恩師への感謝

１年から５年まで組替えもなく乙組で、担任の先生は菅又元之助 (※5) 先生でした。先生には５年間、人間としての生涯いくべき在り方を総べて薫陶されたように思います。苦しい時困った時に、目を閉じて考えると、菅又先生の御訓えが蘇ってきて何回となく救われたものでした。本当に有難い事です。

そのほか、鹿島の菊地舎監先生、いわきの磐崎出身の石川虎之助 (※6) 先生、テニス部長の物理の斎藤丈夫 (※7) 先生、英語の鎌田昌次郎 (※8) 先生等々、先生方の強い印象がありありと思い出され、なつかしい昔にかえりたいとつくづく思うほどです。昔は先生は怖いと畏敬していたがそれでもまた、親子のような親しみもあったように思われてなりません。

古希を越した私が、自らを振り返ってみて進学も就職も、また結婚も、人間は運命に左右されているのではなかろうかと、つくづく考えさせられるのです。然し、また、その裏側には、その運命に立ち向って精限り、根限り努力し奮闘した事も秘められているように思うのです。

どうか、後輩の前途有為の若人の皆さん、価値ある勉強に一にも二にも努力することが肝要です。そして高校在学中に、良き友、良き恩師を作ってください。特に先生方との対話は絶対に必要だと思います。高校の先生方の懐に飛びこんで、悩みを訴え、苦しみをたずねて自分を磨いて下さい。それが、あなた方の将来に偉大なる前進の糧となるものでありますから……。

（※1）「相中相高八十年」1978(昭和53)年5月7日発行、「想い出の記」より。

（※2）大正12（1923）年卒、広野出身。　（※3）後藤勇。上真野出身。

（※4）相中校長：英語 修身 大正３年～大正10年。　（※5）相中教諭兼舎監：大正４年～大正12年。

（※6）相中教諭：国語 大正11年～昭和７年。　（※7）相中教諭：物理 大正９年～昭和６年。

（※8）相中&相高教諭：英語 大正９年～昭和32年。

（転記&※脚注　村山）